PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

05-222919

(43)Date of publication of application: 31.08.1993

(51)Int.Cl.

F01N 3/02

F01N 3/02

(21)Application number : 04-026729

(71)Applicant: TOYOTA MOTOR CORP

NIPPONDENSO CO LTD

(22)Date of filing:

13.02.1992

(72)Inventor: IWASAKI EIJI

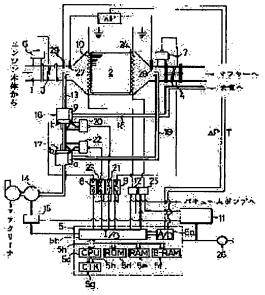
KAGEYAMA TERUTAKA

(54) EXHAUST EMISSION CONTROL DEVICE FOR DIESEL ENGINE

(57)Abstract:

PURPOSE: To enhance durability, in an exhaust emission control device for a diesel engine, by reducing the unburned particulate remains after the regeneration of a filter for lengthening the collecting period of particulates.

CONSTITUTION: In addition to the main heater 10 positioned at the one end of a filter 2, a subheater 24 is provided at the other end thereof. For instance, when the unburned particulate remains are caused by the regeneration interruption of the filter accompanied by the operation stop of an engine, supplementary regeneration of the filter is carried out in the reverse direction by the subheater 24 in accordance with the condition of the regeneration interruption, or sometimes at the time of restart of operation.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

04.02.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3118935

[Date of registration]

13.10.2000

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-222919

(43)公開日 平成5年(1993)8月31日

(51)Int.Cl.⁵

識別配号 庁内整理番号

FΙ

技術表示箇所

F01N 3/02 341 H 7910-3G 3 0 1 M 7910-3G 341 R 7910-3G

審査請求 未請求 請求項の数1(全 10 頁)

(21)出願番号

特願平4-26729

(22)出願日

平成4年(1992)2月13日

(71)出願人 000003207

トヨタ自動車株式会社

愛知県豊田市トヨタ町1番地

(71)出願人 000004260

日本電装株式会社

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地

(72)発明者 岩▲崎▼ ▲英▼二

愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動

車株式会社内

(72) 発明者 影山 照高

愛知県刈谷市昭和町1丁目1番地 日本電

装株式会社内

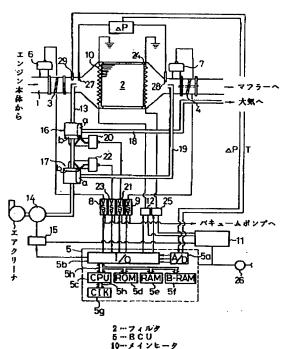
(74)代理人 弁理士 青木 朗 (外4名)

(54)【発明の名称】 ディーゼル機関の排気浄化装置

(57)【要約】

【目的】 本発明はディーゼル機関の排気浄化装置に関 し、フィルタ再生後のパティキュレート燃え残り量を低 減し、パティキュレート捕集期間を長くして、その耐久 性を向上することを目的とする。

【構成】 フィルタ2の一端に位置するメインヒータ1 0に加え、他端にサブヒータ24を設け、例えば機関運 転停止に伴うフィルタ再生中断によるパティキュレート 燃え残り発生に対しては、その再生中断状況に応じ、場 合によっては運転再開時、サブヒータ24より逆方向か らフィルタ補完再生する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ディーゼル機関の排気系に設けられ排気 ガス中のパティキュレートを捕集するフィルタと、該フィルタの一端に設けられ、かつフィルタ再生時、フィル タを加熱してフィルタ内のパティキュレートを着火燃焼 する第1再生加熱手段とを有する排気浄化装置であっ て、

更に、上記フィルタの他端に設けられフィルタを加熱する第2の再生加熱手段と、上記第1 再生加熱手段によるフィルタ再生時にフィルタ内に残留したパティキュレー 10 ト燃え残り状態を推定するパティキュレート燃え残り推定手段と、推定されたパティキュレート燃え残り状態に応じて上記第2 再生加熱手段を選択的に作動させ、再度、フィルタ再生する再生補完手段とを設けたことを特徴とする排気浄化装置。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明はディーゼル機関に設けられる排気浄化装置に関し、特に排気ガス中のパティキュレートを捕集するフィルタを排気系に設けた排気浄化装 20 置に関する。

【0002】一般に、ディーゼル機関の排気中には排気 微粒子、即ちパティキュレートが多く含まれているため、機関の排気系にはこのパティキュレートを捕集する ためのパティキュレートフィルタ (以下、フィルタと呼ぶ)が装着されており、例えば実開昭63-14819号公報には、パティキュレート捕集能力を向上させるため、1つの排気通路に対して2つのフィルタを並列配置した、所謂デュアルフィルタタイプの排気浄化装置が開示されている。

【0003】ところで、上述したような排気浄化装置に装着されるフィルタは、使用に伴ってその内部に蓄積されるパティキュレートの量が増えると通気性が次第に損なわれ、機関性能が低下することになるため、パティキュレート捕集量に応じて定期的に再生されるようになっている。

【0004】ここで、このフィルタ再生とは、例えばフィルタの一端に設けた電気ヒータを通電させることによりパティキュレートに着火燃焼し、一端部から他端部にかけて再生用ガスを供給して燃焼伝播し、再びフィルタ 40の通気性を確保することを意味しており、上述したデュアルフィルタタイプの排気浄化装置では、一方のフィルタ再生中には残りのフィルタでパティキュレートを捕集するようにし、交互にフィルタ再生するようにしている。

[0005]

【発明が解決しようとする課題】ところで、上述したようなフィルタ再生処理においては、再生途中にして機関運転停止(エンジンキーオフ)してしまうようなことがあり、この場合、エンジンキーオフに伴って上述した電 50

気ヒータや再生用ガスを供給する電動エアポンプの作動 も停止してしまうことになり、フィルタは不完全再生状 態になってしまい、フィルタ内にパティキュレートの燃 え残りを生じてしまうようなことがある。

【0006】又、このような燃え残りの発生は、上述したような条件に限られるものではなく、通常の再生が完了した状態でもフィルタ内部の温度差などによって再生下流側のフィルタ外周部周囲に生じることがあり、このようにフィルタ内にパティキュレートを残留させたままでフィルタ再生モードからパティキュレート捕集モードへと復帰すると、次のフィルタ再生時までのパティキュレート捕集期間が短くなり、総じてフィルタ再生回数が多くなり、フィルタ自体の耐久性が悪化する恐れがある。

【0007】本発明はこのような排気浄化装置の問題に鑑み、パティキュレート捕集期間を長くしてフィルタの耐久性を向上させることが可能な排気浄化装置を提供することを目的とするものである。

[0008]

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明によれば、ディーゼル機関の排気系に設けられ排気ガス中のパティキュレートを捕集するフィルタと、該フィルタの一端に設けられ、かつフィルタ再生時、フィルタを加熱してフィルタ内のパティキュレートを着火燃焼する第1再生加熱手段とを有する排気浄化装置であって、更に、上記フィルタの他端に設けられフィルタを加熱する第2の再生加熱手段と、上記第1再生加熱手段によるフィルタ再生時にフィルタ内に残留したパティキュレート燃え残り状態を推定するパティキュレート燃え残り状態に応じて上記第2再生加熱手段を選択的に作動させ、再度、フィルタ再生する再生補完手段とを設けたことを特徴とする排気浄化装置が提供される。

[0009]

【0010】従って、本発明ではフィルタの他端側にも第2の再生加熱手段を設け、例えばフィルタ内のパティキュレートが殆ど焼却され第2再生加熱手段の近傍に若干のパティキュレートが残留するような場合には、むしろ第2再生加熱手段で再生するというように、パティキュレート燃え残り推定手段によって得られたパティキュレート燃え残り状況に応じて第2再生加熱手段を選択的に作動させ、通常のフィルタ再生の後、再度補完再生することでパティキュレートの燃え残りを減少させる。

[0011]

【実施例】以下、1つの排気管に1個のフィルタを設置

する代表的な排気浄化装置モデルに例をとり、以下図面を参照して本発明を説明するが、本発明の概念はこの実施例に限定されるものではなく、当然、2つのフィルタを並置させたデュアルフィルタタイプの排気浄化装置にも適用可能である。

【0012】まず、図1に示す排気浄化装置を概略的に 説明するに、1は図で左側に位置することになるエンジン本体(図示せず)からの排気ガスが流動する排気通 路、2はこの排気ガス中のパティキュレートを捕集する フィルタ、3及び4はフィルタ再生時、このフィルタ2 を排気通路1より遮断する第1排気制御弁及び第2排気 制御弁である。

【0013】これらの第1排気制御弁3及び第2排気制 御弁4は、共に制御回路(ECU)5によって制御され る圧力応動型アクチュエータ6、7によって開閉駆動さ れるようになっており、各アクチュエータ6,7への圧 力導入は夫々対応して設けられた負圧切換弁 (VSV) 8,9を介して行われ、ECU5がこのVSV8,9に 対して開弁信号を出力した際、バキュームポンプ(図示 せず)からの負圧がアクチュエータ6、7に導かれる。 【0014】本実施例によれば、第1再生加熱手段とし てフィルタ2の排気上流側の端面近傍、或いは端部に は、フィルタ再生時においてフィルタ2を加熱してパテ イキュレートを着火させる電気ヒータ10(以下、この ヒータをメインヒータ10と呼ぶ)が設けられ、このメ インヒータ10に対してはバッテリ11から電力が供給 され、ECU5によって作動されるヒータリレー12に より通電制御されるようになっている。

【0015】又、本実施例ではフィルタ2と前述の第1 排気制御弁3との間の排気通路1内には、フィルタ再生 30 時、フィルタ2に対してその上流側よりパティキュレート燃焼のための再生用ガス(2次空気)を供給するためのガス供給管13の一端が開口し、このガス供給管13 は電動エアポンプ14に接続される。尚、この電動エアポンプ14も電気ヒータ同様、ECU5によりリレー15を介して駆動制御され、ガス供給管13内部には更にフィルタ再生時、管通路を開く第1再生ガス制御弁16及び第2再生ガス制御弁17が直列状に設けられる。

【0016】ところで、これらの再生ガス制御弁16, 17にはガス供給管13の他に、その他端が大気へと開40 放されたガス放出管18、及びその他端がフィルタ2より排気下流側の排気通路1に開放された副ガス供給管1 9が夫々接続されており、本排気浄化装置の作動時、第 1再生ガス制御弁16はガス放出管18を閉じる位置a と(図1に点線で示す)、ガス供給管13を閉じる位置 b(同、実線)のいずれか一方を占めるように、アクチュエータ20及びVSV21によって作動され、他方第 2再生ガス制御弁17は副ガス供給管19を閉じる位置 a(点線)とガス供給管13を閉じる位置bのいずれか一方を占めるように、アクチュエータ22及びVSV250 3によって作動される。尚、これらVSV21, 23への前記バキュームポンプへの負圧導入も、ECU5によって制御される。

【0017】以上のように構成される排気浄化装置にお いて本実施例によれば、前述のメインヒータ10に加え 第2の再生加熱手段として、フィルタ2の排気下流側の 端部には、メインヒータ10とは逆方向からフィルタ2 を加熱することができ、以て同様にパティキュレートを 着火可能な電気ヒータ24(以下、このヒータをメイン ヒータ10に対しサブヒータ24と呼ぶ) が設けられ る。そして、このサブヒータ24もメインヒータ10同 様、バッテリ11から電力が供給され、ECU5によっ て作動されるヒータリレー25により通電制御される。 【0018】ECU5は、例えばマイクロコンピュータ として構成され、上述した各制御弁やヒータ、エアポン プなどを駆動する信号を出力したり、後述する運転条件 を検出する各センサからの信号をA/D変換器5aを介 し入力する入出力ポート(I/O) 5 bを有しており、 更に従来同様、CPU5c、ROM5d、RAM5e、 エンジンキースイッチ26のオフ後も情報を保持するB -RAM (バックアップラム) 5 f、タイマクロック (clk) 5gが設けられており、これらはバス5hで 相互接続されている。

【0019】上述した入出力ポート5bの入力側には、フィルタ2の再生時期を判断するためのフィルタ前後差圧 APを検出する圧力センサ27及び28、フィルタに入る排気ガスの温度Tを検出する温度センサ29からの出力信号がA/D変換器5aを介して入力されるようになっており、この他ECU5には従来同様、機関の運転条件を検出する各種センサ(機関回転数センサ、吸入空気量センサなど)からの出力信号も入力されるようになっているが、本発明では直接の関係はないため省略する。

【0020】以上のように構成される排気浄化装置のパティキュレート捕集時の作動に関しては、例えば図2に示すように、双方の排気制御弁3,4が共に開弁し、第2再生ガス制御弁17が位置bを占めるように駆動させ、機関本体からの排気ガスがガス供給管13に進入することなくフィルタ2を通過することで、排気ガス中のパティキュレートがフィルタ2に捕集されることになる。

【0021】一方、通常のフィルタ再生時作動にあたっては、圧力センサ27, 28によって検出され、吸入空気量G a や機関回転数N e、排気温度Tによって所定運転条件下に標準化されたフィルタ前後差圧 $\Delta P'$ が所定値を越え、現在フィルタ再生時期とE C U 5 が判断したならば、まず第1 排気制御弁3 のみが閉じられ、排気ガスは図示しないバイパス通路によってこのフィルタ2 を迂回され、更に2 つの再生ガス制御弁16, 17 が共に位置 a を占めるように、夫々に対応するV S V に対して

信号がECU5より出力される。

【0022】そしてこの状態でメインヒータ10が通電 されてフィルタ2を加熱し、ほぼ同時に電動エアポンプ 14が駆動開始されてフィルタ2に再生用ガスが供給さ れ、この結果、パティキュレートが着火・燃焼し、その 燃焼ガスは開弁している第2排気制御弁4を介して排気 通路下流側に流れていくことになる。

【0023】ところで、以上のようにしてフィルタ内の パティキュレートが完全に焼却されれば問題はないが、 種々のフィルタ再生条件によってはフィルタ内に大量の 10 パティキュレートを残留させてしまうような場合があ る。図3は、このパティキュレート残留例として、例え ばフィルタ再生途中にして機関運転停止してしまうよう なケースを例にとり、それを更に細分化し、夫々のケー スに対して本実施例の装置によって採られる対処法をヒ 一夕及びエアポンプの通電タイムチャートで表現したも のである。

【0024】まず図3の(a)は、上述した通常のメイ ンヒータ10による再生において、再生中に機関運転停 止がなく、完全にフィルタ再生される場合のメインヒー タ10及び電動エアポンプ14の作動タイミングを示し ており、再生開始時からの作動時間 t₁ はメインヒータ 10がTh: (例えば、3分)、電動エアポンプ14が Ta: (例えば、15分) であるものとする。

【0025】次に図3の(b)は、再生開始直後に運転 停止された場合を想定しており、例えば再生開始からの 経過時間 ti が、予め実験的に定められる時間Th2

(例えば、1分) よりも短い場合には、メインヒータ1 0はまだ十分加熱しておらず、フィルタ2はパティキュ レート着火に至っていないと判断し、停止後の機関再始 30 動時には通常のフィルタ再生を初めから行う。

【0026】又、図3の(c), (d)は、ある程度の フィルタ再生が進行した時点で機関運転停止され、更に 停止後、すぐに運転再開された場合を想定しており、

(c) は運転停止がメインヒータ10の通電中に起こっ た場合、(d) は電動エアポンプ14の作動中に起こっ た場合を示している。

【0027】ここでは、再生中に機関停止となったと同 時に計測開始される時間 t₂ を見て、メインヒータ10 や電動エアポンプ14が作動停止してもフィルタ温度の 40 下降幅が小さいと判断される程の機関停止時間Th。

(例えば、30秒) 未満の場合、機関運転再開後、残さ れた所定の再生処理を継続することにする。

【0028】更に図3の(e)は、(d)と同様に、あ る程度の再生進行後の機関停止であるが、t2 ≧Th3 となる程、停止時間が長いような場合を想定しており、 この時にはフィルタ2内のパティキュレート火炎が消え てしまうため、来るべき運転再開時には、残留パティキ ュレートにより近いサブヒータ24を通電し、より少な い通電量を以て通常のフィルタ再生方向とは逆の方向か 50

らパティキュレートを焼却するようにする。尚、この時 の各制御弁の作動位置は、図1,2に示すように双方の 排気制御弁3,4を共に閉じ、更に再生ガス制御弁1 6, 17が共に位置bを占めるように作動させる。

【0029】この結果、電動エアポンプ14から供給さ れた再生ガスは、第2再生ガス制御弁17により副ガス 供給管19に流入し、サブヒータ24より下流側の排気 通路1に供給され、フィルタ2の下流側から排気上流側 へと逆流することになる。そして、サブヒータ24の加 熱によって残留パティキュレートに着火され、その燃焼 はメインヒータ10の位置するフィルタ上流側へと伝播 され、パティキュレート燃え残りの焼却がなされ、この 補完再生に伴って発生したパティキュレート燃焼ガス は、フィルタ2より上流側で開口するガス供給管13に 取り込まれ、第1再生ガス制御弁16によりガス放出管 18を介して外部に排出されることになる。

【0030】尚、このサブヒータ24による補完再生の 時間Ta: (sub)は、中断されたメインヒータ10 による通常再生時間 t , から演算して適切な値を設定す ることが好ましく、その補完再生中に再び機関運転停止 した場合には、上述した図3の(b), (c)のメイン ヒータ制御と同様にサブヒータ24を通電制御しても良

【0031】図4及び図5に示すフローチャートは、図 3を以て説明した本実施例の排気浄化装置のフィルタ再 生を達成するECU5の作動を説明するものであって、 エンジンキーがオンとなり機関運転開始した際には必ず ステップ S 1 からスタートされるプログラムであって、 機関停止後においてもECU5への電源バックアップに よって後述する所定の処理を実行するものである。

【0032】図4に関し、まずステップS1ではフィル タ再生開始時にスタートされる前述した再生経過時間 t ∴ が 0 であるか否かを見て、開始現在フィルタが再生中 であるか否かを判定する。機関運転開始した時点では通 常、この時間t, は0にリセットされているため、ここ でYesと判定されたならば(再生中でない)、次にル ーチンはステップS2に進み、ここでフィルタ再生時期 か否かを判定する。

【0033】この判定は、例えば圧力センサによって検 出され、その時の排気温度や吸入空気量によって基準運 転条件下の圧力値に補正されたフィルタ前後差圧 A P' が、フィルタ再生を必要とする所定値(実験的に定めら れる)を超えるか否かで判定することができる。

【0034】ステップS2でYesと判定されたなら ば、続くステップS3では図2で説明したようなメイン ヒータ10による通常のフィルタ再生処理が実行され、 ステップS4で再生経過時間 t , をカウントするタイマ がスタートされる。

【0035】この再生経過時間t、は、続くステップS 5でその都度ECU5内のB-RAMに記憶されるよう

20

になっており、更にステップS6では現在、機関運転中 であるか否かを判定し、機関運転中である場合 (Ye s)、続くステップS7で経過時間t」が通常のフィル 夕再生所要時間 Ta1 〔図3の(a)参照〕より以上か 否かを判定する。そして機関運転中であって所要時間T a. より小さい限りにおいては(ステップS7でN o)、ステップS8で経過時間 t₁ を積算し、再びステ ップS5に戻り記憶されていた時間を更新する処理がな される。

【0036】そして、機関運転中のまま経過時間 t, が 時間Taiを超えた時、ルーチンはステップS7でYe s と判定され、ステップS9に進み、フィルタ再生終了 のための処理、即ち図2で説明したパティキュレート捕 集状態に復帰する処理をし、続くステップS10で経過 時間tiをOにリセットしてステップS2に戻り、来る べき次回のフィルタ再生処理まで再生時期か否かの判定 を続行することになる。尚、ステップS2で現在再生時 期でないと判定される限りにおいては(No)、ルーチ ンはステップS11に進み、ここで機関運転中であるか 否かの判定をし、Yesの場合にはステップS2に進 み、機関運転停止された場合 (No) にはこのままルー チンを終了する。

【0037】以上説明したルーチンは、図3の(a) に 示すように機関運転停止による再生中断がないままに円 滑に通常のフィルタ再生が達成される場合に相当する。 これに対して、フィルタ再生中に機関運転停止し、再生 が中断された場合にはステップS6でNoと判定される こととなり、ルーチンはステップS12に進み、ここで 機関運転停止時間 t2 を計測するタイマカウントをスタ ートさせ、時間 ti と同様にステップS13でB-RA M内に記憶する処理がなされる。

【0038】ステップS13に続くステップS14で は、図3の(e)で説明したように、この停止時間t2 がフィルタ再生中断にも拘わらず許容できる停止限界期 間Th。を超えたか否かを判定する。そして、未だ許容 期間内である場合(No)、続くステップS15で機関 運転再開されたか否かを判定し、停止中である限りにお いては(No)、ステップS16でタイマtzを積算 後、再度ステップS13に戻り記憶を更新する。

【0039】そして t2 < Th3 のまま機関運転再開さ れたならば〔図3の(c), (d) に相当〕、ステップ S15でYesとなり、ルーチンはそのままステップS 1に戻ることになり、これとは逆に、停止期間 t2 が限 界期間Th。以上となって、ステップS14でYesと 判定される程その機関停止期間が長いような場合には、 タイマ t₂ の値をそのまま保持しつつ、本ルーチンを終 了することになる。

【0040】ところで、以上説明したように通常のフィ ルタ再生が中断された場合には、停止後の運転再開時に 図3の(b), (c), (d) に示すような補完再生が 50 直ちに開始されることになるが、この時、フローチャー トにおいては再開時スタートされるルーチンのステップ S1において、 $t_1 \neq 0$ であるために N_0 と判定され、 ステップS17に進むことになる。

【0041】ステップS17では前回のフィルタ再生が 中断された時のタイマ t₁ の値を見て、これが図3

(b) のケースに相当するか否かを所定時間Th2 より 小さいか否かで判定する。そして本ステップS17でY e s と判定され、再生スタート直後に機関停止したと判 定されたならば、初めから通常のフィルタ再生をやり直 すことになるため、ステップS18で再生タイマt」を 0にリセットして、フィルタ再生ステップS3に進むこ とになる。

【0042】又、これとは逆にステップS17でNo、 即ち再生開始後、ある程度の時間が経過した後、機関停 止するような図3(c),(d),(e)のようなケー スの場合、ルーチンはステップS19に進み、ここで停 止期間 t₂ が許容限度期間 Th₃ より小さいか否かを判 定し、Yesと判定された場合〔即ち、図3(c),

(d) ケース〕には、前述したように再生続行のためル ーチンは再度ステップS3に戻り、残された所定時間に 亙るヒータ通電、或いは再生用ガスの送風を実行する。 【0043】尚、この際の残されたヒータ通電、送風の 実行に関しては、図示したフローチャートのように、予 め定められていた正規のヒータ通電時間や電動エアポン プ駆動時間から機関運転停止までの再生経過時間 t₁ を 単純に減じて実行される方法の他に、停止期間 t₂ の大 小に応じて、その再生続行時間が割り増しされるよう に、所定演算式を以て再生時間を補正する処理をステッ プS19からステップS3に戻る過程に入れても良い。 【0044】一方、ステップS19でNo、即ち停止期 間t。が許容限度期間Th。よりも大きいと判断された 場合には図3(e)に相当し、今回の機関運転停止期間 中にフィルタ内のパティキュレート燃焼が消えたことが 予想されるため、ルーチンは図5のステップS20に進 み、サブヒータ24による補完再生時間Ta1 (su b) が演算される。

【0045】この演算はメインヒータ10による実際の 再生処理時間 t により、所定の演算式を以て行われ、 続くステップS21では、図2の下段に示すようなサブ ヒータ使用時の各弁作動とサブヒータ24への通電が開 始され、更にステップS22では補完再生経過時間 t₁ (sub) をカウントするタイマがステートされる。 【0046】この補完再生経過時間 t₁ (sub) は、 続くステップS23でその都度、ECU5内のB-RA M5fに記憶され、メインヒータ10による正規の再生 と同様に、ステップS24で経過時間 t; (sub)が ステップS20で求められた補完再生時間Ta」(su

b)を超えたか否かが判定される。そして、このステッ

プS24でNoと判定される限りにおいては、ステップ

S 2 5 で経過時間 t_1 (sub) を積算し続け、再生時間 Ta_1 (sub) を超えた場合 (ステップ S 2 4 で Y es)、ステップ S 2 6 でフィルタ補完再生終了のための処理をし、続くステップ S 2 7, S 2 8 で夫々の経過時間 t_1 (sub), t_1 , t_2 を 0 にリセットして、新たなパティキュレート捕集処理を開始するべくステップ S 2 に戻るのである。

【0047】以上が本実施例におけるECU5の作動フローチャートの説明であるが、このフローチャートは大別して、(1)フィルタ再生中に機関運転停止しない場 10合、(2)フィルタ再生中に機関運転停止する場合、

(3) (2) の後に再始動し、再生を再開する場合(但し、この場合再始動後の再生中には機関の停止が無いことを想定している)の、以上3つの場合を想定したものである。

【0048】尚、サブヒータ24による補完再生途中に、再び機関運転停止するような場合も考慮して、前述したような図3(b),(c)に表せるメインヒータ制御をサブヒータ24に対しても実行するためには、前述のステップS23とステップS24との間に、機関運転20中か否かの判定処理を加え、機関停止した場合には先のステップS12以降のように停止期間を計測し、再始動時にはメインヒータ10の時と同様に、この停止期間の長短に応じたサブヒータ24の通電制御及び再生用ガス供給制御をすれば良い。

【0049】以上本発明による排気浄化装置を、そのパティキュレート燃え残り発生ケースが再生途中に機関運転停止した場合を一例にとり、更にその場合のパティキュレート燃え残り状態の推定を、再生開始から機関運転停止までの時間経過で判断したもので説明したが、本発30明はこの実施例に限定されるものではなく、例えば機関停止せずに一連のフィルタ再生処理が完遂されるような

場合にあっても、再生後のフィルタ前後差圧の変化等によって、フィルタ内パティキュレート燃え残り状態を推定し、差圧の変化に応じてメインヒータ、サブヒータを 選択作動するようにしても良い。

[0050]

【発明の効果】以上説明したように、本発明によればパティキュレート燃え残り推定手段によって得られたパティキュレート燃え残り状況に応じて、第2再生加熱手段によって、再度フィルタの再生補完をするため、パティキュレート捕集スタート時点でのパティキュレート燃え残り量を少なくすることができ、次回再生までの捕集期間を長くすることができ、結果的にはフィルタの耐久性を向上することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による一実施例としての排気浄化装置の 概略構成図である。

【図2】図1に示す排気浄化装置のパティキュレート捕 集時とフィルタ再生時の各制御弁の作動を説明する図で ある。

【図3】本実施例の排気浄化装置における各フィルタ再生パターンを、その時のヒータ制御タイムチャートで説明した図である。

【図4】図3の各フィルタ再生パターンを実行するECU(制御回路)の作動を説明するフローチャートの一部を示す図である。

【図5】図4のフローチャート部分に続くフローチャート部分を示す図である。

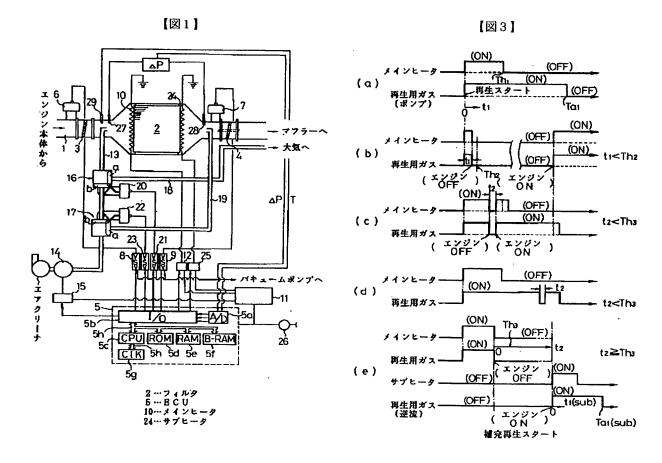
【符号の説明】

2…フィルタ

5…制御回路(ECU)

10…メインヒータ

24…サブヒータ



[図2]

		第1 排気制御弁	第2 排気制御弁	第1再生ガス 制御弁	第2再生ガス 制御弁
パティ描集時	·ティキュレート 集時	票 (VSV8:0FF)	開 (VSV9:0FF)	a (VSV21:OFF)	b (VSV23:0 N)
革・	メインヒー タ使用時	開 (VSV8:0 N)	7.E	Ö	Q (VSV23:OFF)
生 よ タ	サブヒータ 使用時	髭	照 (NO:60SA)	BB b (VSV21:O N)	۵

[図4]

